

播磨灘広域共同調査（抄録）

平成29年度赤潮・貧酸素水塊対策推進事業

住友寿明・池脇義弘・平野 匠

本調査は、有害赤潮の原因となる*Chattonella*属や*Karenia mikimotoi*及びノリ、ワカメの色落ちを引き起こす珪藻等について、その増殖と環境要因の関係を調査し、赤潮による被害の未然防止と軽減に資することを目的とする。また、瀬戸内海東部海域において、赤潮多発期及びノリ、ワカメ養殖期に関係機関で連携のとれた共同調査を実施する。このことによって、栄養塩濃度及び有害種の動態等を効率的に把握し、瀬戸内海東部における有害赤潮及び珪藻の出現特性等を明らかにするものである。

平成29年度における徳島県担当海域（播磨灘南東部）における有害種等の出現数の推移等について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成29年度赤潮・貧酸素水塊対策推進事業報告書」を参照されたい。

1. 夏季調査

*C. antiqua*及び*C. marina*は6月中旬に出現し、7月上旬には検出されなくなった（図1）。7月中旬には再び出現したが、期を通じて低密度だった。

*K. mikimotoi*は7月中旬に出現したが、期を通じて低密度

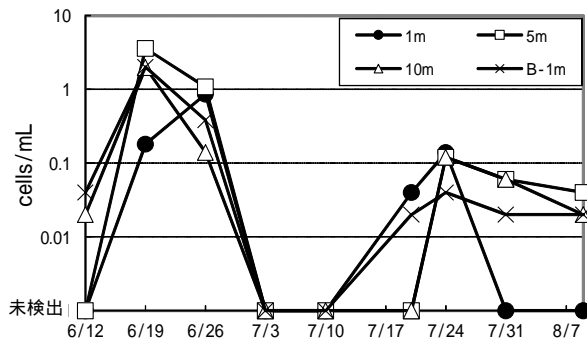


図1. *C. antiqua*及び*C. marinai*細胞数の推移

だった（図2）。

近年は、夏季の赤潮による漁業被害の件数が減少傾向にあるが、引き続きモニタリングを行い、漁業被害の防止や軽減に努めるとともに予察技術の精度を向上させる必要がある。

2. 冬季調査

ノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻の*Eucampia zodiacus*が12月上旬から1月下旬に出現したが低密度だった（図3）。同じくノリ、ワカメ色落ちの原因となる珪藻の*Coscinodiscus wailesii*が11月上旬から1月上旬に出現したが低密度だった（図4）。DIN濃度については、昨年度より高めに推移した。一時的にDIN濃度が2 μ M（ワカメの色落ちが発生する目安）を下回ることもあったが、ワカメの顕著な色落ちは報告されなかった。

近年は、栄養塩の減少に加え、ノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻が増加し、ノリやワカメの色落ち被害が度々発生している。引き続きモニタリングを行うことでノリ、ワカメの色落ちの原因となる珪藻赤潮の発生メカニズムを把握し、予察技術の開発を目指す。

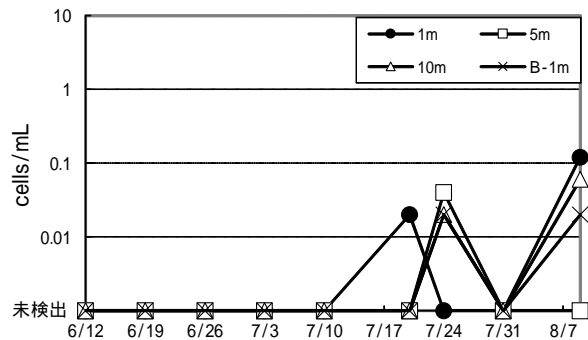


図2. *K. mikimotoi*細胞数の推移

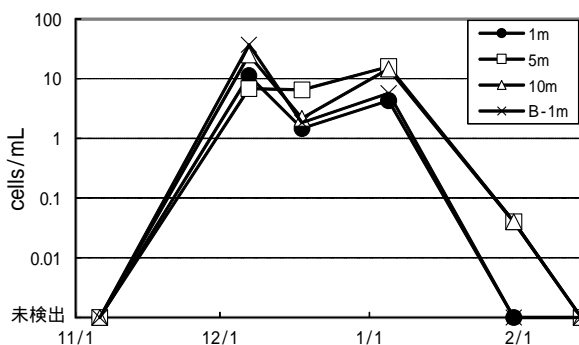


図3. *E. zodiacus*細胞数の推移

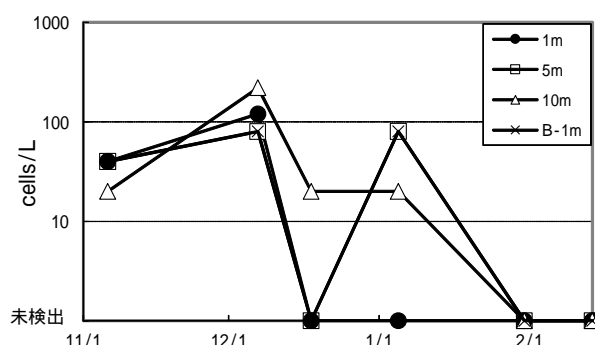


図4. *C. wailesii*細胞数の推移